

生徒たちの「新鮮な気持ち」を大切に

堀江先生は月に二回ほど、「国語教室通信」というプリントを生徒たちに配布しています。国語の学習の見通しや本の紹介などをまとめたもので、授業びらきではまずこのプリントを配るそうです。プリントにはどのような思いが込められ、そこからどのような国語の授業が展開されていくのでしょうか。

1 授業への心構えをつくる

四月の生徒たちは、新鮮な気持ちで、新しいことを吸収しようという思いにあふれています。授業びらきは、そのような思いを大事にして、生徒が「さあ、国語の学習をがんばるぞ」と思えるようなものにしたと思っています。

最初の授業では、まずプリント「国語教室通信 No.1」（左ページ参照）を配布します。右側には、「これから、たくさんさんの『大人の言葉』に出会いましょう。そして、その

言葉をまねて使うことで身につけていきましょう」という、私から生徒へのメッセージが書かれています。この文章を読み、大事なところを線を引かせ、授業への心構えをつくりまします。

左側には、暗唱コーナーを設けています。特に一年生では、みんなで声を出すことの楽しさを味わわせたいと思っていますので、暗唱（または朗読）を必ず行うようにしています。この「口は一つに耳二つ」は、安居総子先生から教えていただいた『尋常小学読本』の文章です。文語調でリズムに

最初の授業で配布するプリント

生徒に読んでほしい本を紹介するコーナー。

暗唱コーナー。授業びらきでは、必ずみんなで声を出す場面を設定している。

「こんな気持ちで国語の学習に臨んでほしい」という、教師の思いを冒頭に綴った。

国語教室通信 No.1

中学校の国語教室
今日からスタート

砂野中の一年生のみなさん、
今日からいよいよ中学生の国語教室のスタートです。
向かって大きな一歩を踏み出す時期。国語教室でたくさんさんの「大人の言葉」に出会いましょう。

〈まねながら学ぼう〉
では、出会った言葉は、どうしたら身につけることができるでしょうか。
ゴツの二つは、いい言葉。んふうに書きたいな。と。思った表現をまねて、使ってみるということです。スポーツだって、一流の選手は、みんなその道のプロにあがれて、まねをしながら自分のスタイルを作っていきます。「おもしろいな」「いいな」の、心のアンテナを敏感にして、ノートに書き

留めたり、書き換えてみたりすることが、国語の力をつけますよ。

〈国語教育通信で〉
言葉の数を増やしましょう。教科外に出てくる言葉は、意味を調べて、使えるように――。

言葉に関するさまざまな情報を得ましょう。本の紹介もあります。自分の読書生活に生かしましょう。

国語教育通信は、試験にも出題します。暗唱などおさましましょう。

〈暗唱①〉
口は一つに耳二つ。
さればいふこと少なくて、多く聞くこそよかりけれ。
口は一つに目は二つ。
されば多くを見て知れて、えきなき話せぬをよき。
口は一つに手は二つ。
さればのみくこととりも二ばいはたらけ。
二ばいはたらけ。
尋常小学読本 巻一 第十九課

く 本の本棚へ
お父さんのバグド「ロップ」
(中島もも / 集英社文庫)
下田くんのお父さんは有名な悪役プロレスラーの牛之助。顔は金髪、髪は赤色の髭を吹く。リングでみどり色の着を吹く。そんな父親が下田くんはイヤでたまらない。今度は黒人の空手家「タマ殺しのカマシ」に挑戦することになったのだ。父を里う小学生の胸のうちはユースラスにえがく表題作。

〈辞書を用意してください〉
次回の授業では辞書を用意してください。辞書は、これからずっと役に立つので、持っていない人は1冊買ってください。
新しく買う場合は、「中辞典」というサイズのもので。

〈予定〉
4月11日は、「国語教室入門」として、辞書を引く練習や聞き取りメモの練習などをします。
※ 5月から、週1回「書き」になります。1学期は毛筆、2学期は鉛筆です。学習道具、とっておくこと。

次時以降に辞書を引く練習をするため、辞書の準備をしておくようアナウンスしておく。

第一時・「国語教室通信」を読む。

・暗唱の練習する。

・学習記録のしかたを説明する。

第二時・前時で集めたノートから、学習記録がうまくまとめられている生徒のノートを紹介する。

・暗唱の練習をする。

第三時・自分が持っている辞書について調べる。

・辞書を引く練習をする。

第四時・暗唱発表会

・本（教科書）の部分の名称（表紙・見返し・奥付など）について確認する。

第五時・暗唱発表会のまとめ

※第六時から、教科書に入る。

私は国語の学習の中で、「学習記録」と「辞書を引くこと」を大切にしているので、第二・三時でこの二つについては、丁寧に指導するようにしています。第四・五時では暗唱発表会を行い、第六時から教科書での学習に入ります。



ほりえ さわこ
堀江佐和子

東京都生まれ。東京都江東区立砂町中学校教諭。日本国語教育学会会員。安居総子先生、甲斐利恵子先生が主催する東京都青年国語研究会に所属し、単元学習を学ぶ。生徒たちの言語生活を広げ、コミュニケーションを大切にしたいと考えている。

2 「学習記録」を習慣づける

授業の終わり五分ぐらいで、必ず「学習記録」を書く時間を取っています。今日の授業で学んだ内容（客観的な記録）、新しく知ったことや感想（主観的な記録）をノートに五行程度でまとめさせます。学習

記録をつけることで、授業で何を学んだのかを振り返らせることができますし、それが蓄積されていけば、生徒たちの国語の力になっていきます。

最初のうちは、毎時間ノートを集めて、学習記録をチェックするようにしています。そして、きちんと記録できている生徒の

「星の花が降るころに」(1年)を 学習したときのノート

ノートは3段に分けるように指導している。

	P ₈₀	%	(32)
			(朗読) 二、星の花が降るころに 冬来 みええ 作品のよさを語る
			「星の花が降るころに」 あらすじ 人物 + 事件 + 結末 ・わたし ・夏文 ・戸部君 （そうじのおばさん） 仲たがい 仲間り
			学習記録 今日は朗読を聞き、新しく星の花が降るころにもやりました。 私も小学校六年生の後期に主人公らしく似た体験をしました。六年生の日取後だったので新しく友達も作れず大変でした。だから、主人公のと持てがすごく伝わってきます。
			星のワケ 銀木屑 金木屑 オレングシ色の小さなサ化 甘い匂い(香り) 秋に木に咲く あたかも まぶで、まぶで。 繊細 ほそりていさようす。 ま指すや感心見かま やかなうす。 糸郎 物の形をあらわすま かりの糸

・中段は板書と学習記録。学習記録は、授業の終わりに、5行程度でまとめさせる。

下段は辞書で調べた言葉やメモ。

「なんですよ」と話し、いくつかの言葉について意味を調べさせます。例えば「右」という言葉を辞書で引いてみると……

みぎ【右】
名 ①東に向かって南のほう。

〔小学館〕新選国語辞典 第七版

みぎ【右】 ①相対的な位置の一つ。東を向

いた時、南の方、また、この辞典を開いて読む時、偶数ページのある側を言う。

(岩波書店)『岩波国語辞典』第五版

みぎ【右】①②アナログ時計の文字盤に向

かつた時に、一時から五時までの表示がある側。

(三省堂『新明解国語辞典』第七版)

このように、辞書によって説明のしかたが異なることを話し、「右」以外にも辞書によっていろいろな意味や用例が出そうなる言葉を生徒に引かせます。辞書の使い方については、教科書一年P22～23にも詳しく紹介されていますので、こちらも合わせて確認させるとよいでしょう。

それから、私は、辞書が引けたら生徒たちに拳手をさせるようにしています。そして早く引けた順に「一、二、三」と、手を拳

ノートをコピーして、他の生徒に紹介しています。そうやって、早い時期から丁寧に指導していき、学習記録をしっかりと習慣づけるようにするのです。

私は、「子どものノートを見ることは、その子自身を知ること」だと思っています。限られた授業時間では、すべての生徒と話



▲学期ごとに、ノートやプリントを綴じて冊子にする。
その際、目次や中扉も入れて整理する。



3 辞書で言葉の世界を広げる

を作るので、ノートだけでなく、プリント類もきちんとファイルに保管しておくよう、授業びらきの際に、生徒へ伝えるようにしています。

私は 生徒の語彙を広げるために、授業の中で辞書を多用します。そのため、「自分の辞書について知ろう」と題し、まず自分が持っている辞書の出版社名・発行年などを調べさせます。そして、「辞書によって、説明のしかたや扱う言葉の数は、さまざま

げた生徒と目を合わせながら数えていきます。そうすることで、「今日は早く引くぞ」という意識が生まれ、教室が盛り上がります。私自身も、授業中にたくさん生徒と目を合わせることができるので、楽しい気持ちになれます。

辞書を引く習慣というのも、やはり早い時期から指導しないと、なかなか身につけません。学習記録のしかたとともに、授業びらきで、しっかりと教えていかなければならないことの一つだと思っています。

（談火）